情報化推進事業（CI-NET）

建設業の取引を、もっとスマートに。

建設業振興基金は、建設業界における電子商取引の共通基盤「CI-NET」の普及推進に取り組んでいます。
紙からデジタルへ！業界全体の業務効率化とコスト削減を支えるしくみを広げています。

CI-NETとは？

CI-NET（Construction Industry NETwork）は、建設業界における電子商取引のための標準化されたルールです。発注から請求までの各種帳票（見積書・注文書・請求書など）をインターネット経由で安全かつ効率的に交換できる仕組みで、元請・下請を問わず幅広い企業が活用しています。

2万超の企業が利用中

2025年５月末時点で、CI-NETの利用企業は20,182社。建設業界における標準インフラとして、今も拡大を続けています。

CI-NET利用イメージ

CI-NET導入前

業務の処理が煩雑
書類の回覧、印刷、発送の作業
データの転記、再入力などの手間
調達状況は書類の確認状況次第

CI-NET導入後

業務処理のスピードアップ
（合理化、省力化）
印紙貼付、郵送費、印刷代の削減
調達状況をリアルタイムに把握

CI-NET利用の特徴

1 電子署名付きの暗号化されたデータ

2 企業識別コードにより本人性の確保

3 1つのサービスで複数企業と取引可能

2025年度重点取組

- 普及活動として全国説明会の実施、他部門との連携を強化して共同でDXに関連した展示会への出展
- 建設業標準のCI-NETとデジタルインボイス標準仕様のJP PINTとのデータ連携を検討（実証実験中）